

はじめに

今回の実習調査は知名町教育委員会の御援助によって成立したものである。公民館への宿泊許可をはじめ万端の御配慮をいただいた。教育長平良清義氏、社会教育課長神川一郎氏、公民館長徳田吉勝氏、就中予備調査の段階から様々の問題を解決していただいた森田明氏には低頭して御礼を言上したい。畑の掘り返しや踏み荒しを御容認いただいた地主の宗村・甲斐・島の諸氏は勿論、大山倭氏他の方々からも御援助をいただいた。これらのこと、序文の冒頭に記して謝意の存るところを示した次第である。

さて、実はこの序文、はじめの原稿では3頁分の長さがあったのである。これまで、実習の講評を一言だけ付け加えるのが例であったのだが、毎回の腹ふくるる想いに耐えかねて批判点を8項目も並べてその詳細を書き立てたからである。しかしこの薄冊に3頁の序文はいかにも大仰である。仕方がないのでこの冊子が刷り上るのを機に、口頭で注意することにした。ただ、この号の発刊が論外に遅延したことだけは記しておいて、反省なり発憤なりの踏み台にすることにしよう。

1988年8月15日

白木原 和美

例 言

○本書は熊本大学文学部考古学研究室による鹿児島県大島郡知名町大字余多字石原305・307・310番地所在の石原遺跡の発掘調査概要である。

○発掘調査は1987年7月13日に開始され、7月24日まで計12日間にわたって行なわれた。

○調査および整理においては以下の方々に御協力・御指導いただいた。

熊本大学地学教室 高橋俊正教授（石器石材鑑定） 長谷義隆助教授（花粉分析） 梅光女学院大学 木下尚子講師（貝製品） 国立歴史民俗資料館 西本豊弘助教授（自然遺物）

○本書の編集は友口・藤崎が行ない、執筆者は各文末に記した。

調査参加者

白木原和美 甲元眞之 友口恵子

藤崎周太郎（大学院一年次生）

網田龍生 岩崎充宏 隈部敏明 吉内素子（以上四年次生）

下田順子 徳永淳 野田純子 福本信子 舛本亜希 森久直 山下志保 吉永真砂子

寺田和也 生野博文（以上三年次生）

大久保謙一郎 岡本睦子 光永美栄 笠由美子 菊原潤一（以上二年次生）

西谷大（中山大学）

本文目次

一、位置と環境……………	5	2) グリッドの所見……………	32
二、調査の目的と経過……………	6	(3) 採集品……………	40
三、調査の概要……………	8	1) 調査区内採集遺物……………	40
(1) 307地点……………	8	2) 知名町中央公民館所蔵石器……………	42
1) 概要……………	8	*ブロックサンプリング……………	42
2) 各グリッドの所見……………	16	四、まとめ……………	50
(2) 305地点……………	26		
1) 概要……………	26		